

湖北圏域地域医療構想調整会議の検討経過について

平成 28 年度から令和 4 年度までの湖北圏域地域医療構想調整会議の概要など

	開催日時および議題	内容
①	<p>平成 28 年 11 月 7 日 18:00～19:45</p> <p>(1)滋賀県地域医療構想および調整会議について (2)平成 27 年度病床機能報告結果等について (3)地域医療介護総合確保基金について (4)意見交換</p>	<p>【概要】 それぞれ事務局から資料に沿って説明。湖北区域の現状と課題を共有した。</p> <p>【主な意見など】 策定された構想は、医療提供体制を医療機関所在地ベースで考えており、湖北区域の慢性期の患者の著しい流出が将来も継続するのではと懸念する。高度急性期と急性期の位置づけが病院ごとに異なることはおかしい。地域完結型を目指すのであれば慢性期の病床は不足している。湖北区域では介護施設も不足しており、区域内で受け入れていくのであれば、病院だけでなく長浜市、米原市も一緒に将来構想を考えていく必要がある。在宅医療の現状維持に苦心している中で、慢性期の病床不足の問題を解決せずに在宅医療のさらなる充実を議論するのはいかなるものか。</p>
②	<p>平成 29 年 8 月 4 日 18:00～19:45</p> <p>(1)2025 年を見据えた医療と介護の提供体制について ① 在宅医療の需要見込み ② 滋賀県保健医療計画、高齢者福祉計画、介護保険事業計画について (2)目指すべき医療提供体制の実現について ① 平成 28 年度病床機能報告について ② 医療機能調査結果概要について (3)地域医療介護総合確保基金の提案事業について</p>	<p>【概要】 滋賀県の保健医療計画に掲げる在宅医療の整備目標と各市町の介護保険事業計画に掲げる介護の整備目標の整合性を図り医療と介護の提供体制を整備する必要があることを確認。 平成 28 年度病床機能報告および医療機能調査のうち在宅医療分野の結果、特に他圏域と比較した湖北圏域の特徴について報告。</p> <p>【主な意見など】 慢性期の区域内完結率が低い中で、慢性期の病床を現在よりも減らすような推計パターンは良くない。湖北区域でどうしていくのか、病床の見直しを引き続き調整会議で検討する。 在宅医療や介護施設、介護医療院などで対応を目指す部分の調整について、湖北区域ではどういう割り振りであれば可能か考えないといけない。医師の高齢化の問題が大きく、在宅医療を維持するための仕組みが必要。</p>

<p>③</p>	<p>平成 29 年 11 月 27 日 18:00～19:45</p> <p>(1)滋賀県保健医療計画（素案）について (2)目指すべき医療提供体制の実現について ～医療機能の分化・連携、慢性期の機能について～</p>	<p>【概要】</p> <p>滋賀県保健医療計画（素案）の医療構想に関する記述および二次医療圏に関する今後の対応について説明。</p> <p>湖北区域の課題を整理し、回復期、慢性期機能や医師の確保の促進について議論した。</p> <p>【主な意見など】</p> <p>慢性期の機能を充実させる必要があることは総意。現在流出している患者を湖北区域でどこまで受けるのか、方向性を決めた上での議論が必要。</p> <p>流出の原因は病床数の不足と、人員の不足による稼働率の低さにある。医師をどう確保するか議論が必要。8割近くの患者が流出していることから、稼働率を高くしたとしても、病床数自体が足りない状況。他の区域へ流出している慢性期の患者の病態がわかれば、受け皿の検討がしやすいかもしれない。</p>
<p>④</p>	<p>平成 30 年 3 月 1 日 14:00～16:10</p> <p>(1)湖北区域における目指すべき医療提供体制の実現 ① これまでの協議経過を踏まえた議題・論点整理 ② 構想の目指す全体像について ③ 慢性期および在宅医療の現状と見通し (2)今後の方向性・進め方について</p>	<p>【概要】</p> <p>議論の経過と論点を報告し、湖北区域の目指す全体像を説明。また、慢性期機能、在宅医療の現状と今後について、医療・介護・社会資源および医療・介護の需要のデータをもとに説明。今後の進め方については、医療機能分化・連携と地域包括ケアシステム推進に向けて、それぞれの役割・機能を共有し、湖北区域全体で協働することの議論を継続することとされた。</p> <p>【主な意見など】</p> <p>長浜病院は急性期の病床数が多く、削減する予定。慢性期の病床はフル稼働しても流出は減らず、増床が必要。</p> <p>湖北病院は急性期、回復期、慢性期の病床が高い稼働率でうまく回っている。長浜病院の慢性期の病床の稼働率を上げて不足するようであれば増床もやむなし。</p> <p>長浜赤十字病院は大きな変更はない。なくなった診療科の回復は困難であり、病院同士の協力が必要。</p> <p>セフィロト病院は精神の慢性期、認知症の慢性期を診ている。認知症は、地域包括支援センターと連携し、早期から関与している。</p>

<p>平成 30 年 7 月 26 日 18:00～20:00</p> <p>⑤</p>	<p>(1)湖北区域地域医療構想について</p> <p>① 地域医療構想の概要、湖北区域の現状と課題</p> <p>② 湖北圏域地域医療構想調整会議の経過と方向性</p> <p>(2)湖北区域における目指すべき医療提供体制の実現</p> <p>① 高度急性期・急性期医療機能の現状について</p> <p>② 地域医療介護総合確保基金の提案事業について</p>	<p>【概要】</p> <p>慢性期機能の区域内完結率の低さに関して、身近な地域で最後まで療養できる体制づくりが重要であり優先課題として議論を進めてきたことを確認。今後はそれと同時に病院間連携や高度急性期・急性期医療の課題についても検討が必要との認識を確認。</p> <p>【主な意見など】</p> <p>湖北区域の急性期医療を将来にわたって確保していくため、高度急性期・急性期医療に関して、長浜病院と長浜赤十字病院の一体的連携に向けた協議を開始。今後の人口減少、高齢化に対して十分な医療提供体制、持続可能な経営体制などを構築するための議論が必要。</p> <p>慢性期の医療需要があるにもかかわらず、病床の利用率が高くないのは、運営するスタッフが十分確保されていないことが原因と考えられる。</p>
<p>平成 30 年 12 月 13 日 18:00～20:00</p> <p>⑥</p>	<p>(1)湖北区域の医療を取り巻く現状</p> <p>① 病床機能報告を定量的視点からみた分析結果</p> <p>② 各医療機能の特徴と医療提供体制の課題</p> <p>(2)湖北区域の医療提供体制の将来像について</p> <p>① 目標年における圏域の将来像</p> <p>② 将来像に向けた具体的な方策の見直し</p>	<p>【概要】</p> <p>病床機能報告の定量的分析の概要と医療・介護等のネットワークの現状と動きについて報告。長浜病院と長浜赤十字病院の一体的連携に向けた協議の場である「湖北地域の高度急性期・急性期医療を考える研究会」の進捗を報告。将来像は 2030 年の姿を見据えて 2025 年までの段階で方向性を定めると確認。</p> <p>【主な意見など】</p> <p>在宅医療に関して、過疎地では不採算であり、在宅を支える医師が減少していく中で、在宅を支える仕組みが必要。</p> <p>遠い地域の療養病床に入院すると、家族との交流が減り、その人自身の存在意義が薄れかねず、改善が必要。</p> <p>回復期はリハビリが主体で、患者自身の主体性が必要であり、場所を変えて自分で取り組む心意気を持たせる必要がある。</p> <p>将来像については、医療需要や高齢化を考えて、2025 年に近い時点で実現しておくのが理想。</p> <p>急性期の医師の確保は、湖北区域として医師を派遣してもらい、それを地域で配分するような形が必要。</p>

<p>⑦</p>	<p>平成 31 年 3 月 11 日 18:00～19:00</p> <p>(1)湖北区域における目指すべき医療提供体制</p> <p>① 病院機能の再編</p> <p>② 実現のための作業について</p> <p>(2)地域医療介護総合確保基金について</p>	<p>【概要】</p> <p>前回の意見を受け、病院機能の再編に係る協議が行われ、将来の病院機能の再編イメージが報告され合意された。</p> <p>【主な意見など】</p> <p>高度急性期は将来の人口構成、医療需要や医師の確保を考えると、1か所に集約する方が良い。地理的な条件から、北部にも一部急性期を診ながら回復期、慢性期を診る病院が必要。医師不足に関して、病院機能を再編し経営母体をまとめて一括で医師の派遣を受け、その中で配分することを検討しながら対応していく。今の医療がどういう状況で、どこに問題があるかなど、住民にしっかり理解してもらえるように情報提供が必要。</p> <p>将来の病院機能再編に向けて作業を進めていく。民間病院では先に進んでおり、機能分化をやると強く決めて進めていくことが大事。</p>
<p>⑧</p>	<p>令和元年 8 月 1 日 18:00～20:00</p> <p>(1)湖北区域の現状課題と調整会議の経過</p> <p>(2)湖北区域における目指すべき医療提供体制</p> <p>① 病院機能の再編イメージ案について</p> <p>② 地域医療介護総合確保基金について</p> <p>③ 周産期医療提供体制について</p> <p>(3)今後の方向性について</p>	<p>【概要】</p> <p>過去の調整会議の概要と湖北区域の現状と課題について報告した。病院機能の再編イメージ案については、ABは機能を確認し、詳細は引き続き協議をしていくこと、Cは北部地域をカバーする湖北病院と位置付けることとされた。今後は調整会議を開催するとともに、学習会や市民啓発等を継続して行う。</p> <p>【主な意見など】</p> <p>2024年には医師の働き方改革があり、時間外や当直などを法律に従った形にする必要があり、高度急性期、急性期を担う医師の集約化が必要。病院の再編をやるためには、経営を連結してみていく必要があり、経営方法の検討が必要。</p> <p>ABCDの病床数は、回復期病床、慢性期病床を増やし、慢性期の患者の流出を止めるための案。回復期機能をどう充実させていくかの議論も必要。</p> <p>回復期、慢性期を担う病院と高度急性期を担う病院とで医師の交流を行うことで、若い医師が両方を経験し深く学べるような仕掛けを作りたい。</p> <p>入院医療と在宅医療、介護の3つが揃うことで誰もが安心して暮らすことができる。医師の確保を含めて湖北区域は非常に危機的な状況であり、病院の機能再編があつてこそ、在宅医療や介護と十分な連携できる。</p>

<p>令和元年 11 月 25 日 18:00～19:45</p> <p>(1)地域医療構想の進め方に係る国の動向について (2)湖北区域における目指すべき医療提供体制</p> <p>⑨ ① 高度急性期、急性期機能にかかる 3 病院の動き、今後の見通しについて ② 診療所機能の再調査結果等について ③ 米原市の地域医療提供体制について (3)情報提供</p>	<p>【概要】</p> <p>地域医療構想の実現に向けて国が公表した「具体的対応方針の再検証の要請」に関する背景と概要を説明。該当する湖北病院の役割、機能について、合意を図りながら継続して協議していくことを確認。</p> <p>高度急性期、急性期医療の提供体制に係る長浜病院、長浜赤十字病院、湖北病院での検討の動きや在宅医療の推進に係る動き、米原市における地域診療所の体制協議の動きをそれぞれ報告。</p> <p>【主な意見など】</p> <p>病院機能再編の実務的検討のため、3 病院の事務部局長で構成する事務局長会議を開催し、病院経営に関する勉強会や全国の先進事例の勉強会なども開催し、今後は各病院の検討結果を基に 3 病院の協議に入っていくことを確認した。研究会報告の概要パンフレットを各医療機関等に配布し住民へ周知している。</p>
<p>令和 2 年 3 月 12 日（書面開催）</p> <p>(1)湖北区域地域医療構想にかかる方向性および具体的な進め方について</p> <p>⑩ ① 重点支援区域選定について ② 医療機能再編支援業務の進捗状況について ③ 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証 ④ 次年度の進め方について (2)その他</p>	<p>【概要】</p> <p>国の重点支援区域の設定について背景や考え方を説明し、滋賀県からは湖北区域が重点支援区域となるよう申請され、選定されたことを報告。</p> <p>医療機能再編支援業務委託事業の概要と現時点での進捗状況を報告。</p> <p>再検証要請対象となった湖北病院の再検証等の期限について、国から改めて通知されることを報告。</p> <p>今後も当事者・関係者が集まり協議をする場を開催し、病院機能再編の具体的検討と具体的作業の進捗状況を調整会議において確認する。</p>

令和4年9月1日 18:00～19:50

① 湖北区域地域医療構想について

- ① 滋賀県地域医療構想の概要、湖北の現状・課題
- ② 湖北圏域地域医療構想調整会議の経過について
- ③ 重点支援区域の技術的支援の結果について

(2) 医師の働き方改革について

- ① 医師の働き方改革の概要について
- ② 京都大学、滋賀医科大学からの要望書について
- ③ 京都大学、滋賀医科大学との調整

(3) 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証等

- ① 再検証対象医療機関の具体的対応方針の再検証
- ② 長浜市立湖北病院の具体的対応方針について

(4) 令和5年度地域医療介護総合確保基金について

- ① 長浜市立湖北病院から
- ② 市立長浜病院から

(5) 医療機器共同利用計画書について

(6) 外来機能報告および紹介受診重点医療機関

【概要】

滋賀県地域医療構想の概要と湖北区域における現状と課題を改めて確認し、本会議の検討経過を振り返った。また、重点支援区域の技術的支援として、医療機能の再編にあたり、検討可能な経営形態の具体例と考え方のポイント、必要経費などの説明を受けたことを、長浜市から報告された。

2024年4月から施行される医師の働き方改革について、その概要とスケジュールを説明。長浜市から、医師の働き方改革に対応するためにも、医療機能の再編を早急に進めるよう、京都大学と滋賀医科大学から要望書の提出があったと報告された。要望書には、再編が進まない場合は、原則としていずれの診療科においても、市立長浜病院と長浜赤十字病院の双方に重複した医師の配置協力は困難ともあった。そのため、両病院の院長と長浜保健所長が両大学を訪問し、地域の取り組みについて理解、協力を得られるよう調整していると報告された。

再検証対象医療機関である長浜市立湖北病院は、必要不可欠な病院として、具体的対応方針を引き続き検討していく。

【主な意見など】

入院機能は当直や時間外対応のため一本化する必要があるが、外来や検査などは、住民サービスを考えて、変化は小さい方がよい。医療機能の分担は保健医療制度に合わせて構築していく。施設を大事に使うことは必要だが、効率的に運用できる形に再構成することも重要。

医師の働き方改革が施行されるまでに、水準の指定を受けておく必要があり、その申請にあたっては、評価センターを受審しておかなければならず、準備を始めないといけない。経営形態は早く決着をつける必要がある。専門医の研修プログラムの変更も必要であり、年度内には環境を整えないと遅い。働き方改革まで時間がなく、診療科ごとにワンチームの体制を作るなど、現場での工夫が必要。旧伊香郡では、開業医の高齢化が進み、継承される見込みはなく、医療体制をどう維持するかの問題がある。湖北病院は総合診療医の拡充を図り、診療所と連携し、訪問診療のハブ病院としての役割を果たしたい。

療養型病床は医療必要度を考慮するため、介護医療院など、誰もが比較的入りやすい施設を整備すると効率的である。

	<p>令和4年12月8日 18:00～19:30</p> <p>⑫ (1)第1回長浜市立2病院経営形態検討委員会 (2)診療科ごとの交流会の開催状況について (3)湖北区域の病床数の整理について (4)長浜市立湖北病院の施設整備の状況について (5)その他</p>	<p>【概要】 病院機能の再編を進めるため、長浜市立2病院の経営形態検討委員会を設置し、来年6月までに5回の会議で経営形態を検討し、最終的には長浜市長が委員会の議論を踏まえて、来年9月に経営形態を表明すると長浜市から説明された。 医療機能の再編に向けた診療科ごと交流会を開催していることを報告。 長浜市立湖北病院からは、今年度に施設整備基本構想・基本計画を策定し、令和7年度の完成を目標として施設整備を進めていくことが報告された。</p> <p>【主な意見など】 長浜市長が委員を選出しており、どこまで議論ができるのか懸念する。日本赤十字社と長浜市の両者に中立なメンバー構成とした協議の場が必要だが、さらに時間がかかるため、方向性の表明は来年の9月より前倒しする調整が望ましい。 再編後の経営形態を決める委員会に日本赤十字社が入っておらず、何が決まるのか。委員会の議論を受けて日本赤十字社と話し合うのでは、結論を出す時期がさらに遅れる。現在の医療機能は継続される必要があり、湖北の医療事情に詳しい方の意見を聞いてほしい。診療科の一元化は経営に対する影響が非常に大きく、経営形態が固まらなければならない。</p>
	<p>令和5年3月2日 18:30～20:00</p> <p>⑬ (1)医療機能の再編についての検討状況について ① 診療科ごとの交流会の開催状況について ② 医師の働き方改革に向けた合同学習会の開催 ③ 長浜市立2病院経営形態検討委員会の開催状況 ④ 今後の医療提供体制の見通しについて (2)湖北区域の目指す医療提供体制について (3)周産期医療にかかる病床の設置について (4)長浜市立湖北病院の施設整備の状況について (5)2025年以降における地域医療構想について</p>	<p>【概要】 湖北区域の目指す医療提供体制については、在宅医療に関して、委員に意見を伺い、10年前との状況の変化について共有した。 周産期医療にかかる病床の設置は妥当であるとの意見でまとまった。</p> <p>【主な意見など】 経営形態の検討は進んでいない。診療科の再編は経営形態が決まっていないと進めにくい。働き方改革はそれぞれの病院の努力によって乗り切る。京都大学、滋賀医科大学からは4月に結論が出ていないと困るという中で、スピード感がなく、働き方改革には間に合わないのが事実。 在宅サービスはデイサービスでは賄いきれず、訪問看護と訪問介護の両方が重要。訪問リハビリの需要は微増。今後は看護小規模多機能の体制整備が必要になる。在宅医療の需要は増えているが、限られた先生が担っておられる。</p>